

全国農産物直売ネットワーク

入会のご案内

- 農業の6次産業化のトップランナーであり、今や全国に2万店以上もある農産物直売所。直売所は地産地消、都市農村交流、コミュニティビジネスなど地域活性化の拠点として食・農・暮らしを最前線で支えています。
- 平成18年度に発足した「全国農産物直売ネットワーク」では、農業の6次産業化の提唱者である今村奈良臣 東京大学名誉教授を初代代表に、全国の直売所のネットワークづくりと情報発信を進めてまいりました。
- 直売所を取り巻く新たな課題に対応し、直売活動のさらなる質の向上と経営の安定を図るため、令和2年8月より新体制での活動をスタートします。直売所の持続的な発展に向けて、皆さまのご入会をお願いします。



活動内容

- 農産物直売所の関係者の連携・ネットワーク化
- 全国農林水産物直売サミット・地方セミナー等の開催
- 農産物直売所に関する情報の収集・発信
- 農産物直売活動を支援する関連団体・企業等との連携
- その他、農産物直売活動の発展に役立つ活動 など

会員区分

- A 直売所会員(農産物直売所) 年会費15,000円
- B 個人会員(生産者、消費者、研究者等) 年会費5,000円
- C 法人会員(直売所以外の法人・団体等) 年会費50,000円

会員サービス

- 直売所の運営に役立つ情報を定期的にお届けします
- 主催イベント、セミナー、ツアーなどに会員価格でご参加いただけます
- 会員間の情報共有を通じて、相互の連携を図ります



自ら伸びる力を助ける、「今村5原則」の教え

前、全国農産物直売ネットワーク代表 今村 奈良臣(東京大学名誉教授)講演録から

全国農産物直売ネットワークの代表に発足以来就任した、今村奈良臣先生(東京大学名誉教授)が令和2年2月28日に退任された(享年85歳)。10月に山形県鶴岡市で開催した「第18回全国農林水産物直売サミット」でも講演を受け持ち、本サミットは第1回からわずか一度の欠席のみで、誰よりも楽しみにしていた。最盛期は年間100日以上の山田山村を訪ね歩き、地元の人々と語り合おう事をライフワークとしていたが、近年は本サミットで全国から来た直売所関係者との出会いを何よりも楽しみに参加していた。「直売所は6次産業化のトップランナー」など、今村節で語られる理論や提言は、多くの人の心に火を灯し、背中を押してきた。

今村先生は東京大学の同級生の多くが医者を目指す中、ただ一人、「俺は農村の医者になる」と言いたたいたという。軍人徴用や農林省農会会長を兼任されたが、最も力を入れたのが、人が自ら育つ場となる地産地消だ。今村様は、自発的に伸びようとする人が集い、自由闊達に議論する場である。そこでは、自ら課題と方向性を提出して動くことを求めている。そして、この教えを受けた人達が、今、全国の直売所や6次産業化を引っ張るリーダーとなり活躍している。今村先生への追悼と敬意を表すため、地産地消や直売活動を進める基本となる「今村5原則」を掲載する。

※本誌は平成28年3月14日に発行した、第21号付録づくり編「環きくら交流きこう」の増補版における講演の一部を転載したものです。

農業ほど人材を必要とする産業はない

私は村づくりや農産物というものをボランティア的にやっています。その理由は、「農業ほど人材を必要とする産業はない」ということからです。農業が優れた国に行っている。間違いなく良い人材が多い。村は正真正正に農業がつかれると言っている人が多くいますが、私は外見よりも中からつぶれてしまうことを心配してました。その方策として、地域が自分で新しい人物を作り出していくことが必要と考えました。

「農業がつまらんら、やめたらどうじゃ」

アメリカの農業の威力や活力を推し進める中、農民にずいぶん会いました。どれいもいつもみな胸を張って僕に会うんです。それに比べて、私も九州の農家の次男だからわかりますけど、日本の農民は、投入などお偉いさんが来て「何を作っているか」と聞くと、奴の鳴くような声で下向き、上目遣いで「米とゴボウを作っています」と言うタイプが多かった。そして、夜は酒を飲みながら、「百姓はつまらんも

のではない」とプツプツと子どもの前で言うわけです。子ども心に「これじゃダメだ」と思い、「そんなに農業がつまらんものだったら、とっとやめたらどうじゃ」と言って、隣のおっちゃんにパーンと殴られたのが心の壁にずっと焼き付いています。



第17回直売サミット(和歌山)での特別講演の講演録(2018年11月2日)

直売ネットの会報「ちよくばい」24号(2020.8月) 写真は初代代表の今村奈良臣氏(東京大学名誉教授)

お問い合わせ先

全国農産物直売ネットワーク

(一財)都市農山漁村交流活性化機構(まちむら交流きこう)内
(土日祝日をのぞく9:30~17:45)

〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町45 神田金子ビル5階

電話03-4335-1984 FAX03-5256-5211 mail:chokubai@kouryu.or.jp

全国農産物直売ネットワーク 役員

2020年8月



代表 染谷 茂
(株)アグリプラス 取締役会長
「かしわで」(千葉県柏市)



副代表 山口 成美
(有)シュシュ 代表取締役
「おおむら夢ファームシュシュ」
(長崎県大村市)



副代表 木村 則夫
(株)秋津野 代表取締役
「きてら」「秋津野ガルテン」
(和歌山県田辺市)

- 幹事**
- 叶野 由佳 (株)産直あぐり 店長 (山形県鶴岡市)
 - 後藤 勲 (株)道の駅しもつけ 支配人 (栃木県下野市)
 - 西坂 文秀 (株)たくみの里 代表取締役 (群馬県みなかみ町)
 - 周郷 崇 道の駅やちよ 農事組合法人クラフト 代表理事 (千葉県八千代市)
 - 毛賀澤 明宏 (株)産直新聞社 代表取締役 (長野県伊那市)
 - 榊田 みどり 農業ジャーナリスト 明治大学客員教授 (埼玉県)
 - 野見山 敏雄 東京農工大学大学院 教授 (東京都)
 - 加藤 美紀 (一社)日本協同組合連携機構 主任研究員 (東京都)
 - 野々山 雄士 (株)長久手温泉 アグリ事業部 支配人「あぐりん村」(愛知県長久手市)
 - 大平 健太郎 (一財)愛の田園振興公社 道の駅あいとうマーガレットステーション館長 (滋賀県東近江市)
 - 石原 佑也 農事組合法人かなん 道の駅かなん 駅長 (大阪府河南町)
 - 綾目 文雄 道の駅クロスロードみつぎ 野菜市 会長 (広島県尾道市)
 - 須山 一 JALまね 販売戦略室 室長 (島根県)
 - 岡 誠也 久万高原町ふるさと創生課商工観光班 係長 (愛媛県久万高原町)
 - 臼杵 徳一 (一財)都市農山漁村交流活性化機構 専務理事
 - 事務局長** 森岡 亜紀 (一財)都市農山漁村交流活性化機構 地域活性化チーム長

全国農産物直売ネットワーク 直売所会員

2020年8月

道の駅なみおか・浪岡アップル友の会(青森県青森市)／農産物直売所 ふれあい二戸(岩手県二戸市)／紫波ふる里センター(岩手県紫波町)／栗原産品直売所あじわいの朝(宮城県栗原市)／花野果市場(宮城県美里町)／フルーツタウン産直あぐり(山形県鶴岡市)／百万石の里しゃきつと(山形県鶴岡市)／道の駅こもち(群馬県渋川市)／道の駅しもつけ(栃木県下野市)／今採り農産物直売所かしわで(千葉県柏市)／道の駅しょうなん 農産物直売所(千葉県柏市)／道の駅やちよ 農産物直売所 クラフト(千葉県八千代市)／ジョイフルファーム鶉の池(愛知県美浜町)／あぐりん村(愛知県長久手市)／道の駅あいとうマーガレットステーション・あいとう直売館(滋賀県東近江市)／道の駅能勢・能勢物産センター(大阪府能勢町)／道の駅かなん(大阪府河南町)／あすか夢販売所(奈良県明日香村)／秋津野直売所きてら(和歌山県田辺市)／道の駅クロスロードみつぎ 野菜市(広島県尾道市)／甲山いきいき村(広島県世羅町)／道の駅仁保の郷いろどり市(山口県山口市)／田布施地域交流館(山口県田布施町)／道の駅やす 協同組合やすらぎ市(高知県香南市)／あんずの里ふれあいの館・あんずの里市(福岡県福津市)／四季菜の市やっぱあ～岡垣(福岡県岡垣町)／おおむら夢ファームシュシュ(長崎県大村市)／大地のめぐみ(長崎県南島原市)／クラッシーノこうし(熊本県合志市)／JAこばやし百笑村(宮崎県小林市)他 ※個人会員はのぞく

